

令和4年3月23日

保護者様

館林市立第九小学校

校長 原 真理子

「第2回学校評価 保護者アンケート」の結果と改善策について

「第2回学校評価 保護者アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。アンケート結果ならびに今後の改善策等をお知らせいたします。

1 アンケート結果

A:よく当てはまる B:やや当てはまる C:やや当てはまらない D:当てはまらない

評価内容		A	B	C	D	A+B
1	学校便りや学年・学級便り、ホームページなどから学校の様子や子どもの様子がよく分かる。	34%	56%	9%	1%	90%
2	授業参観や懇談会に参加しやすい。	37%	57%	6%	0%	94%
3	学校に連絡や相談がしやすい。	28%	64%	8%	0%	92%
4	授業参観等で見た授業はお子さんに分かりやすい。	33%	62%	5%	0%	95%
5	お子さんは「家庭学習集中期間」に、自分で学習計画を立てて取り組んでいる。	22%	46%	24%	8%	68%
6	九小の子は進んであいさつをしている。	18%	54%	27%	1%	72%
7	九小の子は、大人や先生に丁寧な言葉づかいをすることができる。	11%	76%	13%	0%	87%
8	九小の子は人に優しく接している	19%	76%	4%	1%	95%
9	お子さんは楽しく学校に通っている。	40%	52%	7%	1%	92%
10	家庭では、毎日十分な睡眠時間をとり、朝食をとって登校させている。	40%	54%	5%	1%	94%
11	児童の安全を守るために、学校・地域・保護者が協力して安全パトロールを行い、通学路の安全を確保している。	49%	41%	10%	0%	90%
12	「夢通信」をもとに、お子さんと将来のことについて話し合っている。	21%	54%	23%	3%	75%

2 考察

(1) 評価が高かった項目

以下の2つの項目は、多くの保護者の方が高い評価(AとBの合計が95%以上)をしているものです。

項目4	授業参観等で見た授業はお子さんにわかりやすい。
項目8	九小の子は人に優しく接している。

○項目4について…今回初めて、地域と学校とが協力して地域防災訓練を学校公開の日に行いましたが、そのときの授業やワークショップ、体験活動の内容を評価いただいたものと受け止めております。今後も新型コロナウイルス感染防止策を十分に取りつつも、地域の人たちのお力を借りながら、より子どもたちにとってためになる授業を行ってまいりたいと思います。

○項目8について…学活や道徳の時間をはじめとして、すべての教育活動の中で、児童が互いのよさを認め合えるよう、これからも指導していきます。

→裏面もご覧ください。

(2) 今後、改善したいこと ※AとBの合計が低かった3つの項目

項目5 家庭での宿題や読書の習慣

第1回学校評価に引き続き、全設問の中で最も低い結果でした。

学校では、家庭学習集中期間だけでなく、日常的に、家庭学習の内容や仕方を具体的に支援してきた結果、子どもたちの評価は上がってきました(64%→71%)。そこで、来年度も次の3点に留意していきます。

- ①より良い家庭学習の取り組みを教室に掲示し、そのよさを共有したり、取り組む内容に悩んでいる児童のお手本となるようにします。
- ②日常的に家庭学習や読書の大切さを伝えつつ、児童一人一人に合った課題を個別に教師が紹介します。
- ③図書室で行っている各種の活動への児童の関心を高めることで、読書に対する意欲の向上を図ります。

ご家庭でも、例えば、お子さんと一緒に読書をして感想を話し合ったり、お子さんの興味のある事柄について一緒に調べたりするだけでも学習につながります。ご協力よろしくお願いします。

項目6 あいさつ

こちらの数値が大幅にダウンしてしまったことを大変心配しています。その一方で、児童の自己評価は上がってきており(80→88%)、親と子の認識の違いの理由を考えることが、問題解決につながると考えます。見守り隊として、日々、子どもたちの登下校の様子を見てくださっている方にお伺いしたところ、

「日頃、見守り隊で見ていると、元気に挨拶をする子、小さな声でする子、あいさつしない子と様々。高学年の男子に挨拶をしない子が少数見られる。思春期、反抗期等であいさつができない時期なのか、恥ずかしさからなのか?本人の考えを聞いてみたい。」

とのご指摘をいただきました。そこで、次の2点を再確認していきます。

- ①あいさつをすることは、相手に対する感謝の気持ちを表すことでもあること
- ②子どもたちの元気な挨拶は、地域を元気にすることに貢献できること

まずは交通指導をしてくださっている地域の方や保護者の方々に元気に挨拶するよう促していきます。ご家庭でも、地域の方々や保護者同士のあいさつを、日常的に行い、「あいさつは当たり前」であることを体験的に学ばせていただければと思います。

項目12 将来への夢や希望

学校では、児童が夢や希望をもち将来のことを考える授業を道徳科をはじめとして様々な教科で行ってきました。また、委員会活動や学級の係活動等を通して、仕事をするものの大切さや楽しさ、自分にもできることがあるという自己有用感を感じ取れるよう指導を続けてきました。その結果、子どもたちの自己評価は上がってきています(81→87%)。そこで、次の2点に留意していきます。

- ①自分の夢や希望・進路についての考える時間を学期に意図的に増やし、児童の意識の向上と持続を図ります。
- ②日常的に、夢に向かって自分が今すべきことを自覚し、行動に移せるよう声かけをしていきます。ご家庭でも、お子さんと将来の夢について話し合ったり、お子さんの将来のために今できることに取り組んだりしていただければと思います。

来年度も、子ども達のために、保護者、地域、学校が、それぞれの立場で取り組めるよう、ご協力をお願いいたします。